

皆野寄居有料道路

皆野寄居有料道路の概要

国道 140 号は熊谷市から秩父地域、雁坂トンネルを経て山梨県へ至る幹線道路です。

秩父地域は観光資源に恵まれ、東京に近いことから多くの観光客が訪れ、交通渋滞が慢性化しております。

このため、特に渋滞の激しい寄居町から皆野町間をバイパスとして地域の生態系の保全と周辺環境への影響に配慮した有料道路として整備しました。

これにより、関越自動車道から秩父地域へのアクセスが格段に向上しました。



路線名	一般国道 140 号
区間	大里郡寄居町大字風布から秩父郡皆野町大字皆野まで
延長	6.9km
道路の区分	第3種 第1級
車道幅員	3.50m × 2車線
設計速度	80km/h
工事期間	平成7年10月2日から平成13年3月27日まで
開通年月日	平成13年3月28日
事業費	188億円



長瀨の岩畳

国指定の名勝・天然記念物。岩畳は結晶片岩が荒川の流れによって侵食されてできた河成段丘。激しい川の流れによって川原の礫(れき)に覆われておらず、岩盤がむき出しになっています(岩石段丘)。対岸の岩壁は「秩父赤壁」と呼ばれています。



秩父羊山公園

秩父のシンボル武甲山の麓、羊山公園に秩父の春の名所「芝桜の丘」があります。植栽面積は、関東でも有数の規模を誇り、色とりどりの芝桜が植栽されています。植栽面積は約 17,600m²、10品種、40万株以上。芝桜の開花時期は4月中旬から5月上旬です。



秩父夜祭

秩父夜祭は、京都祇園祭、飛騨高山祭と共に日本三大曳山祭の1つに数えられています。勇壮な屋台囃子を打ち鳴らし、町なかを曳き回されるのが、笠鉦2基と屋台4基の山車(国重要有形民俗文化財)です。平成28年に「秩父夜祭」を含む「山・鉦・屋台行事」33件が、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

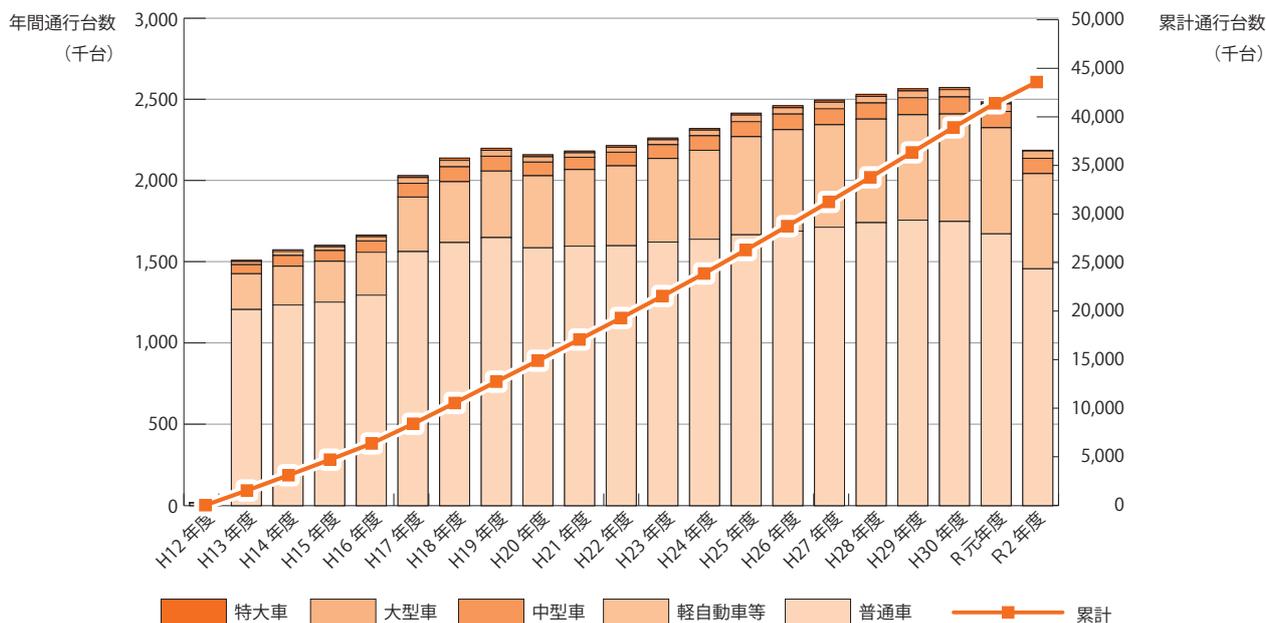
道路ネットワーク（開通前・開通後）の比較



「末野陸橋」から
「皆野大塚」間
(約 10km)



利用状況の推移グラフ



皆野寄居有料道路は平成 13 年（2001 年）3 月に完成しました。距離 6.9km の県内唯一の山岳道路です。2 年目以降年間約 150 万台の交通量となり、徐々に交通量は増えて、平成 17 年度（2005 年度）には年間 200 万台に達しました。その後も交通量は増加を続け、令和元年度（2019 年度）までは大よそ 250 万台を記録しています（最大は平成 30 年度（2018 年度）の 257 万台）。令和 2 年度（2020 年度）までの累計台数は 4300 万台に達しました（いずれも「軽車両」を除く）。



開通記念式典：平成 13 年 3 月 28 日

他の有料道路よりなぜ高い？ 普通車 430 円の理由

皆野寄居有料道路の通行料金は普通車 430 円です。新見沼大橋有料道路（同 150 円）などと比較すると高いと感じるのではないのでしょうか？

皆野寄居有料道路がある秩父地域は自然に恵まれ豊かな生態系を持っています。このため、有料道路の建設にあたっては、環境保護や景観保全と利用者の利便性の向上を高いレベルで両立する必要があります。そこで、皆野寄居有料道路は豊かな自然環境の保護や周辺環境との調和を目的として、全線の約 7 割をトンネルで建設しました。

そのため、建設費用が 188 億円とトンネルの無い一般的な道路建設費用よりも多額の建設費用となったため、利用者の皆様にもその分を通行料金として多くご負担いただいています。

皆様の多大なるご理解により、皆野寄居有料道路は秩父地域の豊かな自然環境を保ちつつ、地域経済の活性化や災害時の緊急輸送路としての機能など地域の持続可能な発展や安全、安心に大きな役割を果たしています。